第4回アジア武術選手権大会

11月14～16日にマニラで　19ヵ国・地域から選手313人出場

「第４回アジア武術選手権大会」は11月14日～16日，アジア武術連盟（ＷＦＡ）の主催，フィリピン武術協会の主管により，フィリピンのマニラ特別市で開催された。

大会の前夜・13日夜には，競技会場となっニノイ・アキノ・スタジアムで開幕式が行われた。

出場選手数は過去最大規模に
太極剣規定套路を正式種目で実施

大会には，ＷＦＡ加盟の23ヵ国・地域のうち19ヵ国・地域から選手313人が出場した。出場選手はこれまでの大会で最多を記録した。参加国・地域は，中国，香港，インド，インドネシア，イラン，日本，カザフスタン，韓国，マカオ，マレーシア，モンゴル，中国台北，タイ，ベトナム，ミャンマー，ネパール，パキスタン，フィリピン，シンガポール。

日本選手団は，三代正廣監督（日本連盟理事），李霞コーチ（日本連盟技術副委員長），増田尚子コーチ（日本連盟公認Ａ級指導員），今夏の第14回全日本選手権大会で選抜された代表選手８人，および帯同審判員として矢島孝一郎国際審判員（日本連盟審判副委員長）の合計12人で編成された。11月11日に日本を出発，18日に帰国した。

大会審判団の中で，川崎雅雄ＷＦＡ技術委員会副主任（日本連盟理事）が副総審判長を担当した。

競技は，国際競技種目の太極拳，南拳，長拳，刀術，剣術，棍術，槍術，および今大会から新設された太極剣規定套路（42式太極剣規定套路）が正式種目として実施された。他に散打競技（８階級）が行われたが，日本は規定套路種目のみエントリーした。

日本は，女子の井上理佐（太極拳，太極剣）はじめ藤本真由美（太極拳，太極剣），勝部典子（南拳，刀術，棍術），神庭裕里（長拳，剣術，槍術），男子の渡邊俊哉（太極拳），平井祐二（南拳），高山宗久（長拳，刀術，棍術），二宮秀夫（長拳，刀術，棍術）の各選手は，中国はじめ各国チャンピオン，有力選手と競い合い，大いに健闘した。

井上理佐選手が金メダル獲得
日本選手団は金１，銀２，銅５

女子選手では，井上選手が太極剣で金メダル，太極拳で銀メダル，神庭選手が剣術で銀メダル，槍術で銅メダルをそれぞれ獲得した。男子選手では，二宮選手が長拳および棍術で銅メダル，高山選手が刀術で銅メダルを獲得した。日本勢は，金メダル１，銀メダル２，銅メダル５という結果に終わった。

大会の主管国となったフィリピンはじめ東南アジア各国におけるレベルアップは目覚ましいものがある。日本に勝るとも劣らない実力を付けつつあることを，成績結果が物語っている。

アジア選手権大会は毎回，西暦偶数年に開催されている。次回は，２年後がタイ・バンコクでの第13回アジア競技大会開催年と重なるため，４年後になる。

大会開催に併せて，マニラ市内でアジア武術連盟総会が11月13日に開催された。現地でＷＦＡ総会の他，執行委員会，技術委員会等の各種会議が開催されているが，これらの内容については，次号で記事を掲載する。